

国際化学肥料ニュース (2017年3月)

肥料業界の2017年3月動態

- * 3月1日、世界最大の加里メーカーカナダの PotashCorp の社長 Jochen Tilk 氏は客先に肥料業界の状況と現在市況の概要を報告した。その内容は下記に要約する。

供給と需要の不均衡で、化学肥料の国際価格が2016年1～10月にずっと低迷している。11月からゆっくり回復方向に向かい、2017年はさらに良くなるだろうと予測している。

加里肥料について、2016年世界の加里肥料販売量が約6000万トン、2015年よりやや減少した。PotashCorp社の2016年加里肥料販売量が2015年より20万トン減の860万トン。なお、2017年の世界加里肥料消費量が約3%増の6100～6400万トン、PotashCorp社が販売量870～940万トン、粗利5.5～8.0億ドルと計画している。

窒素肥料について、新規のアンモニアと尿素生産ラインの完成により、2016年尿素価格が低迷している。特に中国尿素的輸出量が36%も減少した。但し、ロシアと中国の尿素減産により、11月から尿素価格が上昇に転じた。PotashCorp社の2016年窒素肥料販売量が前年より50万トン増の640万トン、粗利3.61億ドルで、好成績を収めた。2017年の予測では、世界の窒素肥料需要量が約2%増であるが、アメリカの新規生産ラインの完成により、尿素輸入量が大幅に減少する見通しで、中東の輸出用低コスト尿素的増加にもあり、尿素的国際価格が引き続き低迷するだろう。

りん酸肥料について、最大輸入国インドは肥料補助金と国産りん酸肥料の増加で、輸入量が大幅減少した。2016年10月までりん酸肥料の国際価格が低迷している。PotashCorp社の2016年りん酸肥料販売量270万トン、粗利3200万ドルしかなかった。2017年の見通しでは、世界のりん酸肥料需要量が約2%増で、モロッコとサウジアラビアの新プラントがそれぞれ完成し、DAP供給が増える。アンモニアと硫黄の市況によりりん酸肥料の国際価格の動きが予測しにくい。

- * ナイジェリア新聞からの報道によれば、ナイジェリアとモロッコが3年間のリン酸肥料貿易協定を締結する予定である。その内容はモロッコからナイジェリアにりん安を輸出し、ナイジェリアが国内38ヶ所の肥料工場に尿素などを加えて化成肥料またはBB肥料に加工して、国内に販売する。年間NPK肥料100万トン以上、雇用人員10万人と目論んでいる。
- * ロシア農業省のデータによれば、2017年1月1日～3月6日の春季シーズンにロシア農家が昨年同期より6%増の71.39万トンの化学肥料を購入した。平均購入価格が硝酸237.6ドル/トン、尿素313ドル/トン、塩化加里261.7ドル/トン、DAP481.6ドル

／トン、NPK 化成肥料 349.7 ドル／トンで、塩化加里を除き、すべて昨年より高くなっている。

- * 2月中旬から化学肥料の国際相場に変化が起きている。まず、尿素について、3月のアメリカとインドの需要不足による供給過剰が顕著となり、昨年11月からの値上げ傾向が値下げに転じた。現在、中東湾岸地域の FOB 価格が 250 ドル／トンに下がり、貿易商に 3 ロット以上の尿素的客先を探している。エジプト大粒尿素的 FOB 価格も 260～265 ドル／トンまで下がった。アメリカではニューオーリンズ港の大粒尿素的 CFR 価格が 240 ドル／トンで、韓国の尿素的 CFR 価格も 240 ドル／トンまで下がった。

りん安について、今年 1 月からの値上げが続いている。南米、オーストラリアとアフリカのりん安需要が旺盛である一方、中国りん安メーカーが共同で減産措置を取り、国際市場への供給量を減らした。現在、ブラジルがモロッコとロシアから輸入した DAP の CFR 価格が 398～405 ドル／トンで、アルゼンチンが行った DAP の CFR 入札価格が 408～410 ドル／トンである。

加里市場について、生産量の削減と需要量の増加により、値上げの動きが見られる。ブラジルと東南アジアがすでに値上げを受け入れた様子。但し、塩化加里の生産能力過剰が解消されない限り、値上げしても小幅にとどまる見通しである。3 月から始まる中国と加里メーカーの 2017 年塩化加里輸入基本契約に関する協議では、CFR 価格が 2016 年の 219 ドル／トンから 30 ドル／トンの値上げと予測される。

- * 中国国家统计局の最新データによれば、2017 年 1～2 月の中国化学肥料生産量 1047.9 万トン（NPK100%換算、以下同）、昨年同期より 7.3%減少した。その内訳は窒素肥料 14.3%減の 659.7 万トン、そのうち尿素が 22.2%減の 438.3 万トンしかなかった。りん酸肥料が 5.3%増の 297.2 万トン、加里肥料が 16.97%増の 86.3 万トンであった。

また、中国税関速報によれば、2 月の中国化学肥料輸出量 207 万トン（実物、以下同）、そのうち尿素 56 万トン、DAP32 万トン。輸入量 117 万トン、そのうち塩化加里 105 万トン、NPK 化成肥料 6 万トン。

- * 2017 年の加里肥料市況が好転し、世界全体の加里肥料需要量が 6200～6300 万トンで、2016 年の 6100 万トンより微増するとロシアの Uralkali 社とドイツの K+S 社がともに予測する。

- * 中国の加里肥料産業が高度成長を継続している。2000～2016 年 16 年間の生産量平均増加率が 17.3%、2016 年国内加里肥料生産量（K₂O 換算）578.3 万トン、自給率 60%に達した。国内加里肥料消費量が増え続けているが、国産品の増加に伴い、輸入量が

27.7%減少した。2016 年末現在、中国国内の塩化加里生産能力 803 万トン、外国にも 28 の加里肥料プロジェクトを展開して、生産能力 200 万トン、約 30 億ドルを投資した。

- * インド IPL 社が 3 月 17 日に今年初の尿素入札を行い、24 日締め切った時点では、応札数 24 件、総応札量 250 万トン。2 月からの尿素国際価格下落の影響を受け、西海岸の最低入札価格が CFR212 ドル/トン（カタール産）、東海岸の最低入札価格が CFR227.97 ドル/トン（ペルシア湾産）で、すべて昨年 11 月に行った前回の最低入札価格（CFR インド西海岸 244.10 ドル/トン、東海岸 246.66 ドル/トン）より大分下がっている。
- * 3 月 17 日に開札されたインド IPL 社の尿素入札結果について、3 月 31 日現在、購入を決定した数量 26 万トン、すべて中東産のものである。その落札順位はアラブ首長連邦の Fertil 社 6 万トン（FOB212 ドル/トン）、サウジアラビアの SABIC 社 10 万トン（FOB215 ドル/トン）、アメリカの Koch Industries 社 10 万トン（CFR227.25 ドル/トン）である。
- * 3 月 28 日に開催された中国りん酸と化成肥料工業協会のフォーラムに於いて、中国りん酸肥料産業が厳しい局面に臨んでいることが明らかになった。2016 年のりん酸系肥料生産量が 7.9%減の 1655 万トン（P2O5 換算、以下同）、輸出も非常に不振で、18.7%減の 469.9 万トンに落ち込んだ。多くのりん酸肥料企業が赤字を計上して、業界全体の営業利益が 0.58%しかない。2017 年もこの減少傾向が続けて、協会は加盟企業に対して、技術革新と新製品の開発を加速して、生産性の低い老朽化設備の廃棄など突破口を見出すよう呼びかけている。

大手各社の営業業績

- * チリ SQM 社は 2016 年第 4 四半期の業績を公表した。塩化加里と硫酸加里の販売量が前年同期より 26%増の 41.06 万トン、売上高も 11%増の 1 億 730 万ドル。2016 年の加里肥料販売量が 24%増の 153 万トン、売上高が逆に 6%減の 4 億 330 万ドル、加里肥料以外の化学品、特にリチウムの販売が好調で、会社全体の営業利益が 31%増の 2 億 7800 万ドルに達した。
- * ロシアの Uralkali 社は 2016 年の業績を公表した。世界的な加里肥料需要不振の影響を受け、塩化加里生産量が 5%減の 1083 万トン、販売量が 2%減の 1095 万トン、そのうち輸出量が 5%減の 870 万トン、平均輸出 FOB 価格 172 ドル/トンである。ただし、コスト削減に功を奏して、純利益が昨年の 1.84 億ドルから 14.3 億ドルに急増した。

一方、Uralkali 社の CEO Dmitry Osipov 氏は、ベラルーシと加里肥料の共同販売に関する協議を再開し、条件さえ合えば、販売組合の再結成も視野に入れていると述べた。

- * ドイツ K+S 社は 2016 年業績を発表した。加里肥料の価格下落と Werra 工場の排水問題で、塩化加里生産量が 80 万トン減。売上高が 17%減の 35 億ユーロ、EBITI（税引き前利益）が 70%減の 2 億 2900 万ユーロ。
- * ノルウェーの Yara 社は 2016 年第 4 四半期の業績を発表した。化学肥料市況が悪化したことを受け、EBITI（税引き前利益）が 29.5%減の 2 億 9600 万ドル、純利益が 3990 万の赤字である。
- * 3 月 30 日、中国最大の化学肥料会社中化化肥社は 2016 年の業績を発表した。売上高が 42.73%減の 21.7 億ドル、営業利益 3500 万ドル、純利益が 6.74 億ドルの赤字である。中化化肥社は国営企業で、化学肥料生産能力 1000 万トン以上を有し、国指定の塩化加里輸入商社でもある。2016 年の化学肥料販売量が 30%減の 913 万トン、その内訳は窒素肥料が 44.35%減の 251 万トン、りん酸肥料が 24.30%減の 180 万トン、加里肥料が 24.45%減の 207 万トン、化成肥料が 30.08%減の 165 万トン。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ドイツ K+S 社はカナダに開発中の塩化加里プロジェクトがほぼ完成し、第 2 四半期から生産が開始する。完成後年間 200 万トン塩化加里を生産することができる。
- * イギリスの Circum 社はエチオピア Danakil 砂漠にある加里資源の採掘申請がエチオピア政府に許可された。当該プロジェクトは Danakil 砂漠の 365km² 面積を 20 年間独占的に採掘し、その後も 10 年ごとに無期限延長するものである。Circum 社の探鉱報告によれば、その地域に約 49 億トンの加里資源が埋蔵され、鉱脈が浅く、水で溶解して採掘するという技術に適して、採掘コストが安く抑えられるということである。

その他

- * 3 月 1 日から中国は有機肥料中の抗生物質測定方法の国家規格が発効した。これから未発酵鶏糞を有機肥料としての販売と使用が禁止される可能性が一段と高くなる。その理由は中国の畜産養殖業に大量の抗生物質が使用され、その原体と代謝産物が糞尿に排出され、農地の抗生物質汚染源となっている。

中国科学院広州地球化学研究所の研究結果によれば、2013 年中国抗生物質使用量 16.2 万トン、そのうち約 52%が畜産養殖業に使われて、大半が養鶏飼料に添加される。

畜産養殖に使われている抗生物質の60～90%が原体または代謝産物の形で糞尿に排出され、抗生物質耐性菌の発生と土壌、水質汚染を引き起こす。それを防ぐため、生鶏糞や乾燥鶏糞の農地への施用が制限されることになる。

- * ベトナム新聞の報道によれば、ベトナム国営尿素2社が原料と環境により業績が大きく異なる。南部にあるペトロベトナム(PVN)社は天然ガスを原料とするうえ、カンボジアやフィリピンにも輸出しているため、傘下の2工場がともに黒字を計上している。一方、北部にあるベトナム化学グループ(VNCG)は石炭を原料にして、原料コストが高いうえ、中国廉価尿素の密輸品に市場が奪われ、赤字に転落した。但し、ベトナム工業貿易省競争管理局は、中国から正規に輸入された化学肥料が不正廉売の証拠がなく、国内化学肥料産業に被害を与えていないので、アンチダンピング調査を開始する必要がないとも述べた。
- * ロシアEurochem社がカナダAgrium社から東欧ブルガリアにある子会社Agricola社を買収した。Agricola社は年間化学肥料販売量7～8万トン、ブルガリア肥料市場シェアの9%を占める。Eurochem社のCEO Dmitry Strezhnev氏はAgricola社の買収がロシア産化学肥料の東欧での販売拡大活動に役立つと述べた。
- * ブラジル国営石油(petrobras)は傘下のアンモニアと尿素工場の売却について中国石油化学社と交渉している。ブラジル国営石油は汚職などに関連して、業績が長年低迷して、アンモニアと尿素工場も赤字操業を続けている。
- * ノルウェーYara社はフランスPardies市にある硝安工場を売却するために買手を探している。当該工場の生産能力が年間10万トン硝安、規模が小さく、競争力が弱いためである。もし、買手が現れない場合は、閉鎖する可能性もある。
- * EU議会の一部東欧出身の議員は化学肥料中のカドミウム規制値を引き上げるよう議会に提案することになる。EUの肥料法律では、りん酸肥料中のカドミウム規制値は20mg/kgで、その規制をクリアするために、高価の良質りん鉱石を輸入しなければならない。その制限で、EU域内の化学肥料企業がコストの面で不利な環境に置かれ、国際競争力が落ちたばかりではなく、りん鉱石とりん酸肥料市場にロシア

の影響力を助長し、WTO 条約にも違反する恐れがある。従って、EU の必要のない規制を緩和すべきであると提案者が主張する。

- * イギリスに本部を有する投資ファンド **Augusta Sulphate** 社はオランダの **Fibrant DSM** カプロラクタム工場を買収することを目論んでいる。当該工場は年間 10～15 万トン副産硫安を生産しているが、老朽化のため、今年第 3 四半期に閉鎖する予定である。**Augusta Sulphate** 社はカプロラクタム生産ラインを閉鎖して、硫安生産ラインを残し、外部からアンモニアと硫黄を購入して、硫安を生産する計画である。